

## 浜の活力再生プラン

令和 7～11年度

## 第 1 期

## 1 地域水産業再生委員会

組織名	今別地域水産業再生委員会
代表者名	会長 野土 一公（竜飛今別漁業協同組合 代表理事組合長）

再生委員会の構成員	竜飛今別漁業協同組合、今別町
オブザーバー	青森県東青農林水産事務所青森水産事務所

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	今別町（竜飛今別漁協西部本所・東部支所の地区） 採介藻漁業（48 経営体） 一本釣漁業（18 経営体） 小型底曳網漁業（14 経営体） サーモン養殖業（1 経営体）  (令和 6 年 12 月 31 日現在)
-------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 2 地域の現状

## (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

今別町の漁業は、沿岸漁業が中心で、従前（令和元年）の水揚金額は、マグロ 20 百万円、ウニ 17 百万円、ナマコ 14 百万円、ウスメバル 10 百万円が上位を占め、全水揚金額が 95 百万円であった。令和 2 年からはサーモン（ニジマス）が本格養殖され、直近（令和 5 年）では、サーモン 512 百万円、ナマコ 27 百万円、ウスメバル 9 百万円、藻類（モズク）7 百万円が上位を占め、全水揚金額は 587 百万円と大幅に拡大した。特に、サーモンは全水揚金額の 87% を占めるに至っている。

漁業センサスによれば、漁業従事者は平成 15 年に 249 人であったが、令和 5 年には 78 人まで落ち込み、20 年間で 1/3 以下に激減している。

当町水産業は、漁業従事者の減少及び高齢化並びに漁村集落における急激な人口減少、気候変動による漁業資源の減少、特に磯焼けによるウニ資源の減少、魚価の低迷、漁業資材及び燃油の高騰により漁業経営が厳しい状況となっている。

## (2) その他の関連する現状等

今別町は、青森県津軽半島北部に位置し、津軽海峡に向かって傾斜する半楕円状の地形を有する東西 17km、南北 14km、総面積 125.27km<sup>2</sup> の町である。集落は、町の中央部を縦断する今別川流域と沿岸地帯に集中し、人口は令和 6 年 7 月 31 日現在 2,143 人となっている。

気候は、津軽海峡の潮流の影響を受けやすく、夏季は、オホーツク海の冷気を含んだ偏東風（やませ）が吹くため低温が多く、冬季は西風が時折吹きつけ、最深積雪は平均 111～113cm となっており、特別豪雪地帯に指定されている。

美しい海岸線は津軽国定公園に指定され、夏に開催される「荒馬（あらま）祭り」には県外からも多くの若者が参加し交流人口の拡大につながっている。

農業は、米、肉牛、野菜の複合経営により 2 億円程度の産出額となっている。昭和 63 年には、青函トンネルが完成。平成 28 年 3 月 26 日には、北海道新幹線「奥津軽いまべつ駅」が開業し奥津軽の玄関口となっている。

### 3 活性化の取組方針

#### (1) 基本方針

##### 1 漁業収入向上のための取組

###### (1) 採介藻・小型底曳網漁業

- ・ つくり育てる漁業の推進による水産物の安定供給を図るため、ナマコ種苗放流や低利用漁場の開発、ウニの移植等による藻場の保全、食害生物駆除等により水揚量の増加を図る。
- ・ サーモン養殖生簀の周辺に発生するCO<sub>2</sub>、N、Pなどの栄養塩を有効利用してコンブ等の増殖を実施することで、磯焼け対策やブルー・カーボンの取組を推進する。

###### (2) 一本釣漁業

- ・ クロマグロ、ヒラメ、ウスメバル等主要魚種について、休漁日を設定する資源管理により漁獲量及び魚価を維持する。

###### (3) サーモン養殖業

- ・ 加工施設の整備等によりサーモン養殖業のバリューチェーンを構築し、サーモンの生産量拡大や高付加価値を図る。
- ・ 2019年に取得した持続可能な水産養殖を推進するASC認証の基準に沿って海洋環境に負荷を与えない生産管理を行いながら魚価の向上を図る。

###### (4) 販路拡大（全漁業種類）

- ・ 当地域の特産品としてウニやサーモンをふるさと納税品に提供するほか、道の駅・直売所での販売により地域PRに併せ販路開拓・拡大を図る。
- ・ サーモン直販商品を消費者ニーズに合った商品で提供することにより販売拡大を図る。
- ・ 地域ならではの特産品として、モズクうどんなどのモズク加工品の販売を促進することによりモズク生産量の拡大を図る。

##### 2 漁業コスト削減のための取組

###### (1) 採介藻・小型底曳網・一本釣漁業

- ・ 当該漁業において、より沿岸の磯根域への漁場移動や減速航行等による燃油コストの削減を図る。

###### (2) サーモン養殖業

- ・ バージ船を活用した養殖サーモンへの自動給餌、低コスト餌料への転換等により餌料費の削減を図る。
- ・ 魚体測定、海況モニタリング、給餌管理などにおいてICTを活用したスマート養殖技術を導入し生産コストを削減する。
- ・ サーモン種苗の中間育苗の集約化による省力化、管理費および輸送費の削減により生産費の削減を図る。

##### 3 漁村の活性化のための取組

- ・ ウニ、モズク、養殖サーモンなどの地域特産品を活用した今別地域ならではの物産のブランド化や海藻・魚介類の地元販売などを通じて、それを目当てに来訪する交流人口の増大を図る。
- ・ 「海上運航祈願祭」で漁村集落の一体感を醸成するなどして地域活性化を図る。
- ・ サーモン養殖業を拡大し今別地域の中核漁業として育成することにより、地元雇用の創出を促進し、漁業従事者の減少や高齢化への対応を図る。
- ・ 近代化・省力化されたスマート漁業などのサーモン養殖業等の漁業の魅力を若者に発信するとともに、UIJターンする担い手漁業者を確保・育成していく。

(2) 資源管理に係る取組

- ・ 採介藻漁業の対象魚種（ウニ、ナマコ、モズク）においては共同漁業権行使規則及び資源管理協定に基づき、また一本釣漁業の魚種（ヒラメ、ウスメバル等）においては県との資源管理協定に基づき資源管理に取り組み持続可能な漁業を行う。
- ・ 藻場の保全活動を実施し、幼稚魚やウニを含む多様な水産物の保育場を形成することにより採介藻・小型底曳網漁業の生産拡大を図る。

(3) 具体的な取組内容

1 年目（令和 7 年度） 所得向上率（基準年比） 3. 7%

<p>漁業収入向上 のための取組</p>	<p>《採介藻・小型底曳網漁業》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者は、磯焼けした沿岸の海域から雑海藻の豊富な海域へウニを移植することにより、磯焼けした藻場を再生するとともに、雑海藻を活用してウニの身入りを増進し単価の向上を図る。</li> <li>・ 漁協は、ナマコやモズクの良い生息環境を整えるため、低利用漁場への投石や天然石の転石により漁場を造成するとともに、ナマコについては地先の親ナマコ等を活用した人工採苗・放流により資源量の増大を図る。</li> <li>・ 漁業者は、サーモン養殖場周辺に発生するCO<sub>2</sub>、N、Pなどの栄養塩を有効利用したコンブ等の増殖を試みることで、藻場の拡大を図り、磯焼け対策やブルー・カーボンの取組を推進する。</li> </ul> <p>《一本釣漁業》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者は、クロマグロ、ヒラメ、ウスメバル等主要魚種について、休漁日の設定などの資源管理により漁獲量及び魚価を維持する。</li> </ul> <p>《サーモン養殖業》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者は、養殖サーモンのバリューチェーン（種苗生産→中間養殖→海面養殖→活締め・スラリー氷詰め→処理加工）を段階的に構築し、安定生産と高付加価値化を図る。</li> </ul> <p>《販路拡大》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁協と町は、当地域の特産品としてウニやサーモンをふるさと納税品に提供するほか、道の駅・直売所での販売により、地域のPRをしながら販路開拓・拡大を図る。</li> <li>・ 漁業者は、養殖サーモンの直販商品をこれまでのセミドレスから、消費者が扱いやすいフィレで提供することにより販売量の増加を図る。</li> <li>・ 漁協と町は、当地域ならではの特産品として開発したモズクうどんなどのモズク加工品を地域イベントや道の駅において販売促進を図ることでモズクの生産量の拡大を図る。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減 のための取組</p>	<p>《採介藻・小型底曳網・一本釣漁業》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者は、沿岸部のウニ漁から磯根の底見ウニ漁への転換により、燃油コストの削減を図る。</li> <li>・ 漁業者は、省エネ機器や高性能機器の導入、減速航行による高効率化・燃費の向上により漁業コストの削減を図る。</li> </ul> <p>《サーモン養殖業》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者は、中間養殖場の拡大による効率化により種苗生産費の削減を図る。</li> <li>・ 漁業者は、バージ船からの自動給餌、モニタリングカメラの活用、餌料の改良（魚粉から代替タンパクへの切替）により、飼料効率を引き上げ、餌料費を削減する。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者は、魚体測定AIカメラ、水温等の海況モニタリング、給餌管理・残量管理などICTを活用したスマート養殖業により、生産コストを削減する。</li> <li>・ 漁業者は、水中ドローンの活用により、網の破損状況、底質環境、残餌等のモニタリングの効率化を図る。</li> <li>・ 漁業者は、生簀の大型化やサーモンの養殖密度を適切に保つことによって作業の省力化を図り、一人当たりの生産性を向上させる。</li> </ul>
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁協や町は、観光資源の充実や誘客促進、交流人口の拡大を図り、地域への経済波及効果を得るため、「津軽海峡今別産ウニ・サーモンまつり（6月）」におけるウニ、サーモン等の即売及び井の提供や、地場産品等直売所「なもわーも（町商工会運営）」及び「道の駅いまべつ半島プラザ『アスクール』」での海藻・魚介類の販売や井の提供（通年）に取り組む。</li> <li>・ 漁業者、漁協、町は、地域伝統文化の伝承や漁村集落の一体感の醸成を図るため、海の安全と大漁を祈願する「海上運航祈願祭」を毎年9月に開催する。</li> <li>・ 漁協、漁業者は、職業教育の一環として保育園児や小学生を対象としたサーモン養殖場での見学や水中ドローン教室等の水産教室を開催し、将来の担い手となり得る子どもたちの、漁業への理解や郷土愛の醸成を図る。</li> <li>・ 漁業者は、UIJターンする若者を雇用し、今別地域の漁業の担い手として育成するとともに地元への定着を図る。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）          漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業（国）          水産業強化支援事業（国）          ナマコ人工種苗生産事業・ナマコ人工種苗放流事業（町）</p>

2年目（令和8年度） 所得向上率（基準年比）5.3%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>《採介藻・小型底曳網漁業》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者は、磯焼けした沿岸の海域から雑海藻の豊富な海域へウニを移植することにより、磯焼けした藻場を再生するとともに、雑海藻を活用してウニの身入りを増進し単価の向上を図る。</li> <li>・ 漁協は、ナマコやモズクの良好な生息環境を整えるため、低利用漁場への投石や天然石の転石により漁場を造成するとともに、ナマコについては地先の親ナマコ等を活用した人工採苗・放流により資源量の増大を図る。</li> <li>・ 漁業者は、サーモン養殖場周辺に発生するCO<sub>2</sub>、N、Pなどの栄養塩を有効利用したコンブ等の増殖を試みることで藻場の拡大を図り、磯焼け対策やブルー・カーボンの取組を推進する。</li> </ul> <p>《一本釣漁業》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者は、クロマグロ、ヒラメ、ウスメバル等主要魚種について、休漁日の設定などの資源管理により漁獲量及び魚価を維持する。</li> </ul> <p>《サーモン養殖業》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者は、サーモン養殖の生産量拡大に向けて、孵化場及び海面養殖用生簀を増設する。</li> <li>・ 漁業者は、養殖サーモンのバリューチェーン（種苗生産→中間養殖→海面養殖→活締め・スラリー氷詰め→処理加工）を段階的に構築し、安定生産と高付加価値化を図る。</li> </ul>
---------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>《販路拡大》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁協と町は、当地域の特産品としてウニやサーモンをふるさと納税品に提供するほか、道の駅・直売所での販売により、地域のPRをしながら販路開拓・拡大を図る。</li> <li>・ 漁業者は、養殖サーモンの直販商品をこれまでのセミドレスから、消費者が扱いやすいフィレで提供することにより販売量の増加を図る。</li> <li>・ 漁協と町は、当地域ならではの特産品として開発したモズクうどんなどのモズク加工品を地域イベントや道の駅において販売促進を図ることでモズクの生産量の拡大を図る</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>《採介藻・小型底曳網・一本釣漁業》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者は、沿岸部のウニ漁から磯根の底見ウニ漁への転換により、燃油コストの削減を図る。</li> <li>・ 漁業者は、省エネ機器や高性能機器の導入、減速航行による高効率化・燃費の向上により漁業コストの削減を図る。</li> </ul> <p>《サーモン養殖業》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者は、中間養殖場の拡大・集約による省力化・効率化により種苗生産費の削減を図る。</li> <li>・ 漁業者は、バージ船からの自動給餌、モニタリングカメラの活用、餌料の改良（魚粉から代替タンパクへの切替）により、飼料効率を引き上げ、餌料費を削減する。</li> <li>・ 漁業者は、魚体測定AIカメラ、水温等の海況モニタリング、給餌管理・残量管理などICTを活用したスマート養殖業により、生産コストを削減する。</li> <li>・ 漁業者は、水中ドローンの活用により、網の破損状況、底質環境、残餌等のモニタリングの効率化を図る。</li> <li>・ 漁業者は、生簀の大型化やサーモンの養殖密度を適切に保つことにより作業の省力化を図り、一人当たりの生産性を向上させる。</li> </ul>
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁協や町は、観光資源の充実や誘客促進、交流人口の拡大を図り、地域への経済波及効果を得るため、「津軽海峡今別産ウニ・サーモンまつり（6月）」におけるウニ、サーモン等の即売及び丼の提供や、地場産品等直売所「なもわーも（町商工会運営）」及び「道の駅いまべつ半島プラザ『アスクール』」での海藻・魚介類の販売や丼の提供（通年）に取り組む。</li> <li>・ 漁業者、漁協、町は、地域伝統文化の伝承や漁村集落の一体感の醸成を図るため、海の安全と大漁を祈願する「海上運航祈願祭」を毎年9月に開催する。</li> <li>・ 漁協、漁業者は、職業教育の一環として保育園児や小学生を対象としたサーモン養殖場での見学や水中ドローン教室等の水産教室を開催し、将来の担い手となり得る子どもたちの、漁業への理解や郷土愛の醸成を図る。</li> <li>・ 漁業者は、UIJターンする若者を雇用し、今別地域の漁業の担い手として育成するとともに地元への定着を図る。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）          漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業（国）          水産業強化支援事業（国）          ナマコ人工種苗生産事業・ナマコ人工種苗放流事業（町）</p>

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>《採介藻・小型底曳網漁業》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者は、磯焼けした沿岸の海域から雑海藻の豊富な海域へウニを移植することにより、磯焼けした藻場を再生するとともに、雑海藻を活用してウニの身入りを増進し単価の向上を図る。</li> <li>・ 漁協は、ナマコやモズクの良好な生息環境を整えるため、低利用漁場への投石や天然石の転石により漁場を造成するとともに、ナマコについては地先の親ナマコ等を活用した人工採苗・放流により資源量の増大を図る。</li> <li>・ 漁業者は、サーモン養殖場周辺に発生するCO<sub>2</sub>、N、Pなどの栄養塩を有効利用した藻場の拡大について効果検証を実施し磯焼け対策やブルー・カーボンの取組を推進する。</li> </ul> <p>《一本釣漁業》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者は、クロマグロ、ヒラメ、ウスメバル等主要魚種について、休漁日の設定などの資源管理により漁獲量及び魚価を維持する。</li> </ul> <p>《サーモン養殖業》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者は、サーモン養殖の生産量拡大に向けて、中間養殖場及び海面養殖用生簀を増設する。</li> <li>・ 漁業者は、養殖サーモンのバリューチェーン（種苗生産→中間養殖→海面養殖→活締め・スラリー氷詰め→処理加工）にセミ超低温冷凍を試験導入し、安定生産と高付加価値化を図る。</li> </ul> <p>《販路拡大》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁協と町は、当地域の特産品としてウニやサーモンをふるさと納税品に提供するほか、道の駅・直売所での販売により、地域のPRをしながら販路開拓・拡大を図る。</li> <li>・ 漁業者は、養殖サーモンの直販商品をこれまでのセミドレスから、消費者が扱いやすいフィレで提供することにより販売量の増加を図る。</li> <li>・ 漁協と町は、当地域ならではの特産品として開発したモズクうどんなどのモズク加工品を地域イベントや道の駅において販売促進を図ることでモズク生産量の拡大を図る</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>《採介藻・小型底曳網・一本釣漁業》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者は、沿岸部のウニ漁から磯根の底見ウニ漁への転換により、燃油コストの削減を図る。</li> <li>・ 漁業者は、省エネ機器や高性能機器の導入、減速航行による高効率化・燃費の向上により漁業コストの削減を図る。</li> </ul> <p>《サーモン養殖業》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者は、中間養殖場の拡大・集約による省力化・効率化により種苗生産費の削減を図る。</li> <li>・ 漁業者は、バージ船からの自動給餌、モニタリングカメラの活用、餌料の改良（魚粉から代替タンパクへの切替）により、飼料効率を引き上げ、餌料費を削減する。</li> <li>・ 漁業者は、魚体測定AIカメラ、水温等の海況モニタリング、給餌管理・残量管理などICTを活用したスマート養殖業により、生産コストを削減する。</li> <li>・ 漁業者は、水中ドローンの活用により、網の破損状況、底質環境、残餌等のモニタリングの効率化を図る。</li> <li>・ 漁業者は、生簀の大型化やサーモンの養殖密度を適切に保つことによって作業の省力化を図り、一人当たりの生産性を向上させる。</li> </ul>

<p>漁村の活性化のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁協や町は、観光資源の充実や誘客促進、交流人口の拡大を図り、地域への経済波及効果を得るため、「津軽海峡今別産ウニ・サーモンまつり（6月）」におけるウニ、サーモン等の即売及び丼の提供や、地場産品等直売所「なもわーも（町商工会運営）」及び「道の駅いまべつ半島プラザ『アスクール』」での海藻・魚介類の販売や丼の提供（通年）に取り組む。</li> <li>・ 漁業者、漁協、町は、地域伝統文化の伝承や漁村集落の一体感の醸成を図るため、海の安全と大漁を祈願する「海上運航祈願祭」を毎年9月に開催する。</li> <li>・ 漁業者、漁協、町は、サーモン養殖業へのU I J ターン者や育成就労外国人の町内居住のため、空き家の活用に取り組む</li> <li>・ 漁協、漁業者は、職業教育の一環として保育園児や小学生を対象としたサーモン養殖場での見学や水中ドローン教室等の水産教室を開催し、将来の担い手となり得る子どもたちの、漁業への理解や郷土愛の醸成を図る。</li> <li>・ 漁業者は、U I J ターンする若者を雇用し、今別地域の漁業の担い手として育成するとともに地元への定着を図る。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）          漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業（国）          水産業強化支援事業（国）          ナマコ人工種苗生産事業・ナマコ人工種苗放流事業（町）</p>

4年目（令和10年度） 所得向上率（基準年比）8.5%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>《採介藻・小型底曳網漁業》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者は、磯焼けした沿岸の海域から雑海藻の豊富な海域へウニを移植することにより、磯焼けした藻場を再生するとともに、雑海藻を活用してウニの身入りを増進し単価の向上を図る。</li> <li>・ 漁協は、ナマコやモズクの良好な生息環境を整えるため、低利用漁場への投石や天然石の転石により漁場を造成するとともに、ナマコについては地先の親ナマコ等を活用した人工採苗・放流により資源量の増大を図る。</li> <li>・ 漁業者は、サーモン養殖場周辺に発生するCO<sub>2</sub>、N、Pなどの栄養塩を有効利用した藻場の拡大について効果検証を実施し磯焼け対策やブルー・カーボンの取組を推進する</li> </ul> <p>《一本釣漁業》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者は、クロマグロ、ヒラメ、ウスメバル等主要魚種について、休漁日の設定などの資源管理により漁獲量及び魚価を維持する。</li> </ul> <p>《サーモン養殖業》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者は、サーモン養殖の生産量拡大に向けて、海面養殖用生簀を増設する。</li> <li>・ 漁業者は、養殖サーモンのバリューチェーン（種苗生産→中間養殖→海面養殖→活締め・スラリー氷詰め→処理加工）にセミ超低温冷蔵を試験導入し、安定生産と高付加価値化を図る。</li> </ul> <p>《販路拡大》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁協と町は、当地域の特産品としてウニやサーモンをふるさと納税品に提供するほか、道の駅・直売所での販売により、地域のPRをしながら販路開拓・拡大を図る。</li> <li>・ 漁業者は、養殖サーモンの直販商品をこれまでのセミドレスから、消費者が扱いやすいフィレで提供することにより販売量の増加を図る。</li> </ul>
---------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<ul style="list-style-type: none"> <li>漁協と町は、当地域ならではの特産品として開発したモズクうどんなどのモズク加工品を地域イベントや道の駅において販売促進を図ることでモズクの生産量の拡大を図る</li> </ul>
漁業コスト削減のための取組	<p>《採介藻・小型底曳網・一本釣漁業》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>漁業者は、沿岸部のウニ漁から磯根の底見ウニ漁への転換により、燃油コストの削減を図る。</li> <li>漁業者は、省エネ機器や高性能機器の導入、減速航行による高効率化・燃費の向上により漁業コストの削減を図る。</li> </ul> <p>《サーモン養殖業》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>漁業者は、中間養殖場の拡大・集約による省力化・効率化により種苗生産費の削減を図る。</li> <li>漁業者は、バージ船からの自動給餌、モニタリングカメラの活用、餌料の改良（魚粉から代替タンパクへの切替）により、飼料効率を引き上げ、餌料費を削減する。</li> <li>漁業者は、魚体測定AIカメラ、水温等の海況モニタリング、給餌管理・残量管理などICTを活用したスマート養殖業により、生産コストを削減する。</li> <li>漁業者は、水中ドローンの活用により、網の破損状況、底質環境、残餌等のモニタリングの効率化を図る。</li> <li>漁業者は、生簀の大型化やサーモンの養殖密度を適切に保つことにより作業の省力化を図り、一人当たりの生産性を向上させる。</li> </ul>
漁村の活性化のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>漁協や町は、観光資源の充実や誘客促進、交流人口の拡大を図り、地域への経済波及効果を得るため、「津軽海峡今別産ウニ・サーモンまつり（6月）」におけるウニ、サーモン等の即売及び丼の提供や、地場産品等直売所「なもわーも（町商工会運営）」及び「道の駅いまべつ半島プラザ『アスクール』」での海藻・魚介類の販売や丼の提供（通年）に取り組む。</li> <li>漁業者、漁協、町は、地域伝統文化の伝承や漁村集落の一体感の醸成を図るため、海の安全と大漁を祈願する「海上運航祈願祭」を毎年9月に開催する。</li> <li>漁業者、漁協、町は、サーモン養殖業へのUIJターン者や育成就労外国人の町内居住のため、空き家の活用に取り組む</li> <li>漁協、漁業者は、職業教育の一環として保育園児や小学生を対象としたサーモン養殖場での見学や水中ドローン教室等の水産教室を開催し、将来の担い手となり得る子どもたちの、漁業への理解や郷土愛の醸成を図る。</li> <li>漁業者は、UIJターンする若者を雇用し、今別地域の漁業の担い手として育成するとともに地元への定着を図る。</li> </ul>
活用する支援措置等	<p>競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）          漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業（国）          水産業強化支援事業（国）          ナマコ人工種苗生産事業・ナマコ人工種苗放流事業（町）</p>

5年目（令和11年度） 所得向上率（基準年比）10.1%

漁業収入向上のための取組	<p>《採介藻・小型底曳網漁業》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>漁業者は、磯焼けした沿岸の海域から雑海藻の豊富な海域へウニを移植することにより、磯焼けした藻場を再生するとともに、雑海藻を活用してウニの身入りを増進し単価の向上を図る。</li> </ul>
--------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁協は、ナマコやモズクの良い生息環境を整えるため、低利用漁場への投石や天然石の転石により漁場を造成するとともに、ナマコについては地先の親ナマコ等を活用した人工採苗・放流により資源量の増大を図る。</li> <li>・ 漁業者は、サーモン養殖場周辺に発生するCO<sub>2</sub>、N、Pなどの栄養塩を有効利用した藻場の拡大について効果検証をもとに今後の方針を定める。</li> </ul> <p>《一本釣漁業》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者は、クロマグロ、ヒラメ、ウスメバル等主要魚種について、休漁日の設定などの資源管理により漁獲量及び魚価を維持する。</li> </ul> <p>《サーモン養殖業》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者は、養殖サーモンを水揚げ直後に高鮮度・高品質加工する水産加工施設の整備により魚価の向上を図る。</li> <li>・ 漁業者は、養殖サーモンのバリューチェーン（種苗生産→中間養殖→海面養殖→活締め・スラリー氷詰め→処理加工→セミ超低温冷蔵）を構築し、安定生産と高付加価値化を図る。</li> </ul> <p>《販路拡大》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁協と町は、当地域の特産品としてウニやサーモンをふるさと納税品に提供するほか、道の駅・直売所での販売により、地域のPRをしながら販路開拓・拡大を図る。</li> <li>・ 漁業者は、養殖サーモンの直販商品をこれまでのセミドレスから、消費者が扱いやすいフィレで提供することにより販売量の増加を図る。</li> <li>・ 漁協と町は、当地域ならではの特産品として開発したモズクうどんなどのモズク加工品を地域イベントや道の駅において販売促進を図ることでモズクの生産量の拡大を図る。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>《採介藻・小型底曳網・一本釣漁業》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者は、沿岸部のウニ漁から磯根の底見ウニ漁への転換により、燃油コストの削減を図る。</li> <li>・ 漁業者は、省エネ機器や高性能機器の導入、減速航行による高効率化・燃費の向上により漁業コストの削減を図る。</li> </ul> <p>《サーモン養殖業》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者は、中間養殖場の拡大・集約による省力化・効率化により種苗生産費の削減を図る。</li> <li>・ 漁業者は、バージ船からの自動給餌、モニタリングカメラの活用、餌料の改良（魚粉から代替タンパクへの切替）により、飼料効率を引き上げ、餌料費を削減する。</li> <li>・ 漁業者は、魚体測定AIカメラ、水温等の海況モニタリング、給餌管理・残量管理などICTを活用したスマート養殖業により、生産コストを削減する。</li> <li>・ 漁業者は、水中ドローンの活用により、網の破損状況、底質環境、残餌等のモニタリングの効率化を図る。</li> <li>・ 漁業者は、生簀の大型化やサーモンの養殖密度を適切に保つことによって作業の省力化を図り、一人当たりの生産性を向上させる。</li> </ul>
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁協や町は、観光資源の充実や誘客促進、交流人口の拡大を図り、地域への経済波及効果を得るため、「津軽海峡今別産ウニ・サーモンまつり（6月）」におけるウニ、サーモン等の即売及び井の提供や、地場産品等直売所「なもわーも（町商工会運営）」及び「道の駅いまべつ半島プラザ『アスクール』」での海藻・魚介類の販売や井の提供（通年）に取り組む。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者、漁協、町は、地域伝統文化の伝承や漁村集落の一体感の醸成を図るため、海の安全と大漁を祈願する「海上運航祈願祭」を毎年9月に開催する。</li> <li>・ 漁業者、漁協、町は、サーモン養殖業へのU I J ターン者や育成就労外国人の町内居住のため、空き家の活用に取り組む</li> <li>・ 漁協、漁業者は、職業教育の一環として保育園児や小学生を対象としたサーモン養殖場での見学や水中ドローン教室等の水産教室を開催し、将来の担い手となり得る子どもたちの、漁業への理解や郷土愛の醸成を図る。</li> <li>・ 漁業者は、U I J ターンする若者を雇用し、今別地域の漁業の担い手として育成するとともに地元への定着を図る。</li> </ul>
活用する支援措置等	競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） 漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業（国） 水産業強化支援事業（国） 水産業競争力強化緊急施設整備事業（国） ナマコ人工種苗生産事業・ナマコ人工種苗放流事業（町）

#### (4) 関係機関との連携

県や水産総合研究所をはじめとする試験研究機関、会員以外の事業者にも協力を仰ぎながら、浜の活力再生プランに掲げる取組を着実に推進し、漁業及び漁村地域の活性化を図る。

#### (5) 取組の評価・分析の方法・実施体制

浜プランの取組状況や効果の発現状況を自ら評価し取組の改善を検討するため、毎年1回再生委員会構成員の担当者や取組の直接の担い手が参集して会議を開催する。会議には、必要に応じて外部有識者を加える。  
取組の評価・分析に当たっては、浜の活力再生プラン達成状況（中間）報告書を活用して行う。

### 4 目標

#### (1) 所得目標

漁業者の所得の向上 10%以上	基準年	
	目標年	

#### (2) 上記の算出方法及びその妥当性

(3) 所得目標以外の成果目標

① 所得向上の取組に係る成果目標

ウニ、ナマコ、モズクの 生産量増大	基準年	令和元年度～令和5年度の 5中3平均：	28.2 トン
	目標年	令和11年度：	30.1 トン

② 漁村活性化の取組に係る成果目標

道の駅いまべつ入込客数の 増加	基準年	令和元年～令和5年の 5中3平均：	95,311 人
	目標年	令和11年度：	97,200 人

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

<p>①ウニ、ナマコ、モズクが生産量増大 ウニ、ナマコ、モズクについて、所得目標の基準年と同じ令和元年度～令和5年度の5中3平均生産実績は、28.2トンとなっており、今後も藻場造成、種苗放流、食害生物駆除等により、令和7年度には28.6トンと生産量を拡大し、目標年の令和11年度には、30.1トンを生産する計画とした。</p> <p>②道の駅いまべつ入込客数の増加 道の駅いまべつ入込客数の令和元年から5年の5中3平均は、95,311人（出典：青森県観光入込客統計）。コロナ禍からの回復に苦戦しているものの、今後、特産品販売の販売促進や魅力度向上により、令和11年には当該平均値に対し2%増加を見込み97,200人とした。</p> <p>いずれも取組内容に即した現実的な計算を行っており、妥当な目標設定であると判断した。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
競争力強化型機器等導入 緊急対策事業（国）	採介藻漁業における漁船船外機導入
漁場生産力・水産多面的 機能強化対策事業（国）	磯焼け海域のウニを磯根藻場へ移植
水産業強化支援事業 （国）	サーモン養殖業における生産量増大に向けた生簀の整備
水産業競争力強化緊急施 設整備事業（国）	サーモンの付加価値向上のための加工施設の整備
ナマコ人工種苗生産事 業・ナマコ人工種苗放流 事業（町）	採介藻漁業及び小型底曳網漁業におけるナマコ増殖に向けた種苗生 産・放流